

評価の観点	技能	単元	球技 バレーボール (2年生男子)	実践日時	R1年度
-------	----	----	-------------------	------	------

本時のねらい 2本で整えて、3本目に強く返すゲームができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：前時の振り返りから課題設定】

- ・前時の振り返りとその様相が具体的にわかる返球率から「狙って返すだけでは得点がとれない」ことに気付かせ、相手に勝つにはどのように攻撃するとよいかを考えさせた。今までのゲームの様相を振り返った時に、強く打った時に得点が取れていることに気づき、「強く打つ」→「スパイク」という課題を設定した。

【手立て②：仲間と共に技術ポイントの習得】

- ・スパイクを打つには、ボールが移動している間にタイミングをつかむことや打つための動作を身に付けることなど多くの技能を必要とする。そのため、スパイクを打つための技術ポイントを絞って練習させた。その動きを、タブレットを使って、技術ポイントから見直させたり、トスを投げ入れる仲間が「1-2-3」とタイミングを伝えたりして、落下点に入りやすいように、仲間と教え合いをさせた。



【手立て③：深い学びにするために】

- ・バレーボールは、必ずしも授業で練習した場面が出てくるとは限らない。スパイクの場面が増えた要因（レシーブ、トス、スパイク）をグループ反省会で認め合うことで、「次も（こそは）頑張りたい」という気持ちを一人一人にもたせることができた。
- ・授業を振り返る中で、本時の学習の効果について話し合わせた。「スパイクに挑戦できたのは、〇〇さんが打ち方やタイミングを声や身振り手振りで教えてくれたから」など、試合での勝利を目指して、技術だけでなく、仲間との関わりが成長に繋がっていることを実感させた。



<板書、生徒の作品、ノートなど>

運動 2本で整え、3本目に強く打って返すゲームをしよう

前時の振り返り

- 三段攻撃率(低)
- スパイクが打てない
- 強く打たない点や打てない

技術ポイント

- 助走 → セッターに入る前に横に広がる
- ① 左手をボールに合わせる
- ② 高い位置でとらえる
- ③ ジャンプして打つ

集団 仲間と大切にして学習できるグループになろう

仲間の成長 = チームアップ!

大切にしたい動き

- 仲間の姿を見て声をかける
- 仲間に教えてあげる
- 課題をわけて一緒にやる
- 励ましの声をかける

1 本時のねらい

- ・2本で整えて、強く返すゲームができる。
- ・仲間を大切に学習できるグループになることができる。

2 本時の展開 (7/12)

過程	条件	学習内容・学習活動		教師の指導と評価	
		運動	集団	運動	集団
計画	全体計画 画会	2本で整えて、強く返すゲームができるようにしましょう。	仲間を大切に学習できるグループを目指そう。	【評価規準】 ネット際に入ったボールをスパイクで返球することができる。(技能)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りから、1, 2本目で球すじを整えている間に、アタッカーは広がり、ネット際に入ったボールをいつでも打てるように準備するとよいことに気付く。 ・バレー部の生徒の手本と自分の姿を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身振り手振りを使ってアドバイスすることが、仲間の技能の向上につながることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 【生徒の学習状況】 タイミングよく走り込んで両足ジャンプし、片手で打って返すことができる。 【評価の方法】 ・ゲーム記録(三段攻撃率) ・反省会での発言内容 ・ゲームの様子の観察 ・練習の様子の観察 	
展開	練習 中間研究会 試合	<p>◇グループ計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの課題や技術ポイントを確認し、授業の見直しをもつ。 <p>◇グループ練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1本目のボールの動きに合わせて広がり、トスでネット際に入ってくるボールに助走をつけながらタイミングに合わせて強く打つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の課題、グループ課題から個人課題を決め、グループで確認する。 ◆ミスした仲間に「もう一本!」「〇〇するといよいよ」などの声をかける。身振り手振りを使って仲間同士で動き方の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの動きに対して、ボールを拾った後の動き方やスパイクを打つ動き方を確認させる。 ・アタッカーのスタート位置をマーカーで確認することで、広がるイメージをもたせる。 ・バックスイングを大きくして高く跳び、肘を高く上げて腕を振って打つように練習させる。 ・落下点に入ることが苦手な生徒には、「1-2-3」の声をかけたり、体を押ししたりしてタイミングをつかませる。 ・打つことが苦手な生徒には、左手をボールに向けて上げ、右肘は高く上げて手首をやわらかく使ってスナップをきかせる練習をさせる。 【学習状況を見届ける】 ・ゲームのラリー中の動きを観察し、練習を生かした動きを価値付ける。 【定着状況を見届ける】 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ目標と個人目標を理解し、互いを高めるために、役割を分担させる。(アドバイスする役、技能でサポートする役) ・マーカーコーンやタブレット端末を準備し、自分の動きを確認したり、分かりやすいように練習方法を工夫したりできるようにする。 ・リーダーやPOを中心に、同じ班の仲間の姿を見届け、積極的にアドバイスできるように指示する。 ・うまくできない仲間に、具体的な動きの声をかけることやできるまで繰り返し練習することが大切であることを助言する。 ・苦手な仲間が成長するように、一緒について練習しているグループを価値付ける。 ・1点ごとに仲間に声をかけ、身振りや手振りを使って仲間に指示を出している姿を価値付ける。
		<p>①相手コートの○から自コートにボールを投げ入れ、◎はなるべくボールの正面に移動して、●に山なりに上げ、開いている◎が走り込んで相手コートに強く返す。</p> <p>②1本目がセッターに返らない場合、2本目、3本目で相手コートにねらって打つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆練習を振り返り、ゲームでの声のかけ方を確認する。 ◆互いに喜んだり、励ましたりしながらゲームをする。 		
評価	反省会	<p>◇グループ反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム記録からスパイクを打った時の得点の効果を振り返る。 <p>◇全体反省会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆目指す仲間の姿になれたか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム記録中の三段攻撃回数から振り返ることで、強く打って返すことが得点につながっていることを実感させる。 ・ゲーム記録中の三段攻撃率から、スパイクだけでなくレシーブやトスの精度をあげることも必要であることを気付かせ、次時への意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す仲間に向けて、身振り手振りを使って仲間に親身になって教えているグループや個人をとりあげ、全体に広める。 ・仲間の成長を願って、一緒に練習をし続ける姿が、仲間を大切にすることだと価値付ける。
		<p>トスのタイミングに合わせて落下点に走り込んでジャンプし、片手で打つことで、自分たちの攻撃で点をとれるようになってきた。次回は、もっと自分たちの攻撃で点が取れるように、球すじをさらに安定させていきたい。</p>			

評価の観点	思考・判断	単元	陸上競技	リレー（1年生女子）	実践日時	R1年度
本時のねらい	チームのタイムを向上させるため、ペアの走力から最適な走り出す位置、バトンを受ける位置はどこなのかを考えることができる。					

<主体的・対話的で深い学びにつながる指導について>

【手立て①：前時までのデータを活用し、課題につなげる】

・ペアごとに、前時までの、理想の走り出す場所、バトンを受ける場所とその際の、バトンパスタイムの記録をホワイトボードに残してある。前時までは、走り出す場所が全員同じなので、さらにバトンパスタイムを短縮させていくには何が必要なのかを考えさせる。走るのが得意な生徒が長く走り、苦手な生徒が短く走るとバトンパスタイムが短縮できることに気付かせ、ペアの走力によって、走り出す場所とバトンを受ける場所を考えさせる。

【手立て②：技能と思考を一致させる場の設定】

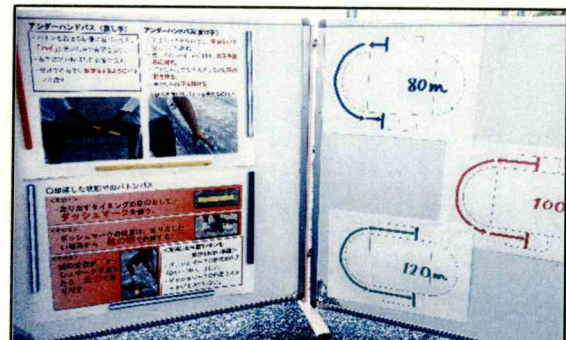
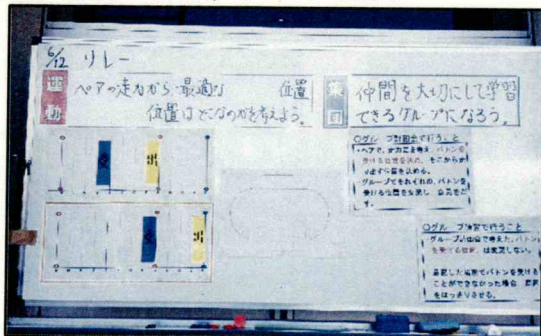
・前時のバトンパスの距離と、ペアの走力差から、バトンを受ける側とバトンを渡す側の走る場所を変更し、練習をする。走り出す場所を変更すると、走り出すタイミングがずれてしまい、加速した状態でバトンパスができない。そこで、走り出す場所や、距離について前時を比較しながら、再考する。



【手立て③：深い学びにするために】

- ・20mバトンパスタイムを測定し、前時のタイムと比較をする。
- ・タイムに伸びが出ていたら、これまでの技能と、本時のポイントが合致していることを認識させる。
- ・タイムの伸びがなかったり、少なかったりした場合は、走り出す場所を変える考えはよかったが、走り出すタイミングが早すぎて、想定でバトンを受けられなかったや、バトンを受ける位置は想定通りだったが、タイムが伸びなかったため、走り出す位置をあと、5m下げて、バトンを受ける位置を変えてみようなどと再考させる。

<板書、生徒の作品、ノートなど>



1 本時のねらい

- ・チームのタイムを向上させるため、ペアの走力から最適な走り出す位置、バトンを受ける位置はどこなのかを考えることができる。
- ・仲間を大切に学習できるグループになることができる。

2 本時の展開 (6/8)

過程	条件	学習内容・学習活動		教師の指導と評価	
		運動	集団	運動	集団
計画	全体 計画 会	<p>ペアの走力から最適な走り出す位置、バトンを受ける位置はどこなのかを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バトンを受ける位置の違いで、走る距離、タイムが変わることを知る。 	<p>仲間を大切に学習できるグループになろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目指す姿について知る。 	<p>【評価規準】 ペアの走力から最適な走り出す位置、バトンを受ける位置はどこなのかを考えている。(思考・判断)</p> <p>【生徒の学習状況】 ペアの走力から最適な走り出す位置、バトンを受ける位置はどこなのかを理由を添えて、伝え合っている。</p> <p>【評価の方法】 ・グループボード ・反省会での生徒の発言内容</p>	
		<p>スピードを保った状態でバトンを受けられるようにはなったけど、みんな同じような位置でバトンを受けている。走り出す位置を変えて、バトンを受ける位置を、テイクオーバーゾーンの入り口や出口付近にできたら、タイムが伸びそうだ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・バトンを受ける位置の違いで、走る距離、タイムが変わることを気付かせる。 ・本時の課題に対して、不安を感じている仲間にとどのように関わりたいか考えさせる。 	
展開	練習 中間 研究会	<p>◇グループ計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの目標を確認する。 ・ペアの走力から最適な走り出す位置、バトンを受ける位置はどこなのかを考える。 <p>◇前半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えた位置から走り出し、意図した位置でバトンが受けられるように、練習をする。 <p>◇中間研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手本となるようなペアのバトンパスを見て、具体的なイメージをもつ。 <p>◇後半練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半練習での結果から走り出す位置について再確認する。 ・20mバトンパスタイムを計測する。 <p>◇レース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3グループごとでレースを行う。 ・ペアグループでバトンタイムを計測し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Lを中心に、円になって話し合う。 ・ポイントとなる動きを観察できる位置に立ち、走り出したタイミング、バトンを受けた位置を確認し合う。 ・走り出す仲間に、応援を送ったり、意識する技術ポイントをアドバイスしたりする。 ・不安を感じている仲間にも何度もアドバイスをする。 ・よい動きができていない仲間や納得がいくまで取り組んでいる仲間のよさを認める声かけをする。 ・全力で走っている仲間を全力で応援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け手が、肘が伸びた状態で、手のひらを相手に向けてバトンパスができていないかを見届ける。 ・渡し手が、バトンパスの瞬間、手を伸ばして、「はい」と大きな声を出して渡しているかを見届ける。 ・意図した位置で、バトンパスができていないペアには、走り出すタイミングと、位置について助言する。 ・【学習状況の見届け】意図した位置でバトンパスができていないペアには、再度、スピードを保った状態でパスができていないかを、20mバトンパスタイムを元に確認し、助言する。 ・【学習状況の見届け】レース中のバトンパスを観察し、課題に迫る動きについて、レース中のバトンパスタイムや姿勢から評価付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Lを集め、本時の見通しをもたせ、グループ会で仲間にも求めたい内容(運動・集団)について打ち合わせる。 ・素直に「分からない」や「教えて」と自分から仲間にも関わろうとする姿をMOと共に認めていく。 ・仲間にも自分の意見を積極的に提案している姿を評価付ける。 ・うまくできない仲間に、やってみせたり、仲間の身体を持って動かしたりしてアドバイスをを行うなど、親身になって関わっている姿を評価付け、全体に方向付ける。 ・不安を感じている仲間に対して積極的に関わっている仲間をMOに位置付けさせる。
		<p>◇グループ反省会</p> <p>◇全体反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り、自分の成長の要因をふまえて成果を交流する。 <p>バトンパスタイムを上げるため、走り出す位置を変えることで、バトンを受ける位置が変わることが分かり、自分たちの走力に合わせて位置を考え、練習することができた。次回は、レースでタイムをもっと伸ばせるように、タイミングを合わせてスタートをしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの成果、課題を明確にする。 ・仲間を大切に学習することができたか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会を回り、意図した位置でバトンを受けるために意識したことを聞き、考え方の変容を確かめる。 ・【定着状況の見届け】 ・POカードから、全体の場でタイムの変容や、その要因(思考力等)について確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・納得がいくまで何度も練習したり、仲間にも求めたりしたグループを評価付け全体に広める。 ・最適な位置を見つけ出したグループの練習姿勢や関わり方について評価づけ、全体に広める。
評価	反省会				

評価の観点	技能	単元	マット運動 連続技 (3年生女子)	実践日時	R1年度
-------	----	----	-------------------	------	------

本時のねらい 肩を入れて上半身を安定させた倒立前転ができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：前時の振り返りから課題設定】

- 倒立前転の自分の評価を上げるために、前時の振り返りと運動状況が示された画像を用い、比較させることで、倒立姿勢を美しくすることが必要であることに気付かせる。そこから示範の姿と、自分の姿と比較して見ることで、肩を入れて支えることが必要なことをつかむ。そして、本時に目指す姿について課題を設定させた。



【手立て②：仲間と共に技術ポイントの獲得】

- 倒立姿勢を美しくするには、他の人に見てもらい、自分の様相を的確につかむ必要がある。そこで得た情報をもとに練習したり、相互援助活動で、身振り手振りを使って仲間にアドバイスさせたりしたことで、倒立姿勢が美しくなった。また、タブレットを使って、自分の姿と理想の姿を比較することで、意識する点をより明確にすることができた。



【手立て③：深い学びにするために】

- 段階表を作成したことで、自分が何を意識して練習すればよいか明確になり、その練習を重点的に行うことができた。また、その練習ができる場を事前に準備することで、仲間と練習方法を選び、自分から進んで練習する姿が増えた。
- 評価会、グループ会の中で、自分の成長を実感させ、仲間の成長を認め合うことを大切にさせた。その姿を生み出すために、互いに関わりながら練習し、成長を実感することで、「次は～を頑張ろう」という意欲につなげることができた。

倒立前転	1		肩や腰が曲がる。肘をのびして倒立する。うまくまわらない。
	2		倒立はできるとはうまいまわらない。(くずれ落ちる。)
	3		倒立ができてきた。(肘、腰がゆるむ。)
	4		倒立ができてきた。(肘、腰がゆるむ。)
	5		倒立ができてきた。(肘、腰がゆるむ。)

<板書、生徒の作品、ノートなど>

肩を入れて倒立前転をしよう

○技術ポイント

- ① 床をみる
- ② 肩を入れて手をつく
- ③ 手、肩、腰が一直線

仲間を大切にして学習するグループになろう

（仲間の姿を見てアドバイス 補助 成長を喜び合う）

1 本時のねらい

- ・肩を入れて上半身を安定させた倒立前転ができる。
- ・仲間を大切に活動することができる。

2 本時の展開 (3/8)

条件 過程	学習内容・学習活動		教師の指導と評価	
	運動	集団	運動	集団
計画 画会	<p>肩を入れた倒立前転をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の姿と手本の姿を比較することで、肘を伸ばし、肩幅に手を開いた状態で倒立すると、上体が安定することに気付く。 ・静止画を見て、倒立のメカニズムを理解する。 	<p>仲間を大切に学習できるグループを目指そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身振りや手振りを使ったアドバイスや苦手な部分の補助をすることが、仲間の技能の向上につながることに気づく。 	<p>【評価規準】 肘や腰が伸びた倒立姿勢を経過して、倒立前転ができる。(技能)</p> <p>【生徒の学習状況】 肘や腰が曲がり、不安定な状態で倒立前転をしている。</p> <p>【評価の方法】 ・練習の様子を観察 ・反省会での発言内容 ・評価会の観察</p>	
	<p>肘を伸ばし、肩を入れた状態で行うことで、土台となる上体を安定させ、より美しい倒立ができるようにしたい。</p>		<p>・段階表から自分の姿をつかみ、肩を入れて行うことが倒立を安定させ、美しくなることに気付かせる。【実態を見届ける】</p>	<p>・身振り手振りを使ったアドバイスや補助することが仲間の成長につながることに気づき、関わり方を考えさせる。</p>
	<p>◇グループ計画会 ・グループの課題や技術ポイントを確認し、授業の見通しをもつ。</p> <p>◇グループ練習① ・肩を入れた感覚をつかむために補助倒立で感覚をつかむ。 ・肩を開いて、肘を伸ばし、肩幅に手を着く。 ・壁を手で肘を曲げずに押す。</p> <p>◇グループ練習② ・倒立前転の流れを一通りできるようにする。 ・役割分担をして、補助を確実に行う。 ・手を見て、背筋を伸ばす。 ・少し傾いたら、頭を入れ前転する。</p> <p>◇評価会 ・段階表をもとに、仲間の演技を評価する。 ・評価はグループの総意で決めるが、最終決定はリーダーが行う。</p>	<p>◆授業の課題、グループ課題から個人課題を決め、グループで確認する。</p> <p>◆補助倒立や壁を肘を伸ばして体で押す感覚をつかむ。その際、仲間の姿を見て、身振り手振りを使ってアドバイスや苦手な部分を補助でサポートする。</p> <p>◆仲間の段階に応じて、練習方法やサポートの仕方を変える。また、声のかけ方を工夫する。</p> <p>◆練習の成果が発揮された時に、互いに喜んだり、励ましたりしながら評価会を行う。</p>	<p>・肩を入れる感覚やフォームを確認する。段階表を使って、自分の技の出来栄えをつかませる。</p> <p>・肩を入れた状態で、互いに押ししたり、壁を押ししたりして感覚をつかませる。</p> <p>・肩を入れて補助倒立を行うことで、上体が安定し、倒立が滑らかになることをつかませる。</p> <p>・倒立から前転に移る流れをつかむ。</p> <p>・腰を上げるのが苦手な生徒には、壁倒立で蹴り上げの練習をさせる。 【学習状況を見届ける】</p> <p>・練習場所を回り、成長を感じられた部分を価値付ける。</p> <p>・評価会での練習の成果を観察し、価値付ける。 【定着状況を見届ける】</p>	<p>・グループ目標と個人目標を理解し、互いを高めるために、役割を分担させる。(アドバイスする役、技能でサポートする役)</p> <p>・タブレット端末を準備し、自分の動きを確認したり、分かりやすいように練習方法を工夫したりできるようにする。</p> <p>・リーダーやPOを中心に、同じ班の仲間の姿を見届け、積極的にアドバイスできるように指示する。</p> <p>・うまくできない仲間に、具体的な動きの声をかけることやできるまで繰り返し練習することが大切であることをアドバイスする。</p> <p>・苦手な仲間が成長するように、一緒について練習しているグループを価値付ける。</p> <p>・評価会前に、仲間へ声をかけ、身振りや手振りを使ってアドバイスしている姿を価値付ける。</p>
練習				
中間 研究会				
試合				
評価	<p>◇グループ反省会 ・段階表をもとにした評価から、肩を入れた倒立前転ができたか振り返る。</p> <p>◇全体反省会 肩を入れた倒立前転をすることで、上体が安定し、倒立姿勢が美しくなってきた。その姿勢ができるようになったのは、仲間の補助やアドバイスがあったからだ。次は、倒立から前転に移るつなぎの部分を美しくしたい。</p>	<p>◆目指す仲間の姿になれたか振り返る。</p>	<p>・肩を入れて倒立をすることで、上体が安定し、倒立姿勢が美しくなることを実感させる。</p> <p>・倒立前転を美しくするには、倒立から前転にうつる滑らかさや指先まで伸ばすことが必要であることに気付かせ、次時への意欲を高める。</p>	<p>・目指す仲間に向けて、身振り手振りを使って仲間に親身になって教えているグループや個人をとりあげ、全体に広める。</p> <p>・仲間の成長を願って、一緒に練習をし続ける姿が、仲間を大切にすることだと価値付ける。</p>
	反省 会			